

平成23年度決算の状況

水道事業会計

(1) 総括事項

水道事業は、給水人口の減少や節水機器の普及及び節水意識の定着等による使用水量の減少に伴って、料金収入が年々減少しており、経営的には非常に厳しい状況となっています。

そうした中、いっそうの経費の節減等による経営の健全化に努めた結果、今年度も利益を計上することができました。

水道事業の財政運営は、今後も一段と厳しいものになっていくものと想定されますが、将来の水道事業の目標や実現するための具体的な施策を示した「大竹市水道ビジョン」に基づいて、施設の更新、耐震化を計画的・効率的に推し進め、水道事業のあるべき姿である「いつでも安全で安定した水の供給」の実現に向けて取り組んでいきます。

(ア) 営業

本年度の有収水量は、3,470,126 m³（1日平均9,507 m³）で、前年度と比較して84,254 m³（2.4%）の減少となりました。

(イ) 建設改良（消費税及び地方消費税込み）

本年度は、施設の改良工事等に総額で93,083,335円（うち消費税及び地方消費税3,949,409円）を支出しました。

本年度に実施した主な工事は、以下のとおりです。

・ 2号緩速ろ過池改修工事	18,027,450円
・ 南栄2丁目地内配水管改良工事(1工区)	18,228,000円
・ 御園1・2丁目地内配水管改良工事(その2)(平成22年度繰越分)	21,177,450円

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成23年度の収益的収支は、収入総額502,707,925円、支出総額464,521,316円で、差引き38,186,609円の純利益となりました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	502,707,925円
(消費税及び地方消費税抜き)	支出総額	464,521,316円
	差引利益額	38,186,609円
資本的収支	収入総額	45,925,340円
(消費税及び地方消費税込み)	支出総額	129,273,422円
	差引不足額	83,348,082円

資本的収支の不足額83,348,082円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額3,961,924円、過年度分損益勘定留保資金32,386,158円、建設改良積立金47,000,000円で補てんしました。

工業用水道事業会計

(1) 総括事項

工業用水道事業は、旧第2期工業用水道事業の企業債償還利息や減価償却費が財政を大きく圧迫していましたが、平成20年度に締結された追加受水契約により財政面の改善が進んだことや資本費平準化債の起債を発行して起債償還額の平準化を図ったことで、本年度も利益を計上することができました。

今後も、経営の健全化に努めるとともに、安定した工業用水の供給を行うことで、本市の産業の活性化に寄与するよう取り組んでいきます。

また、平成23年4月1日に本市の工業用水道事業を統合し、水の相互融通による安定給水の確保と施設の有効利用を図っています。

(ア) 営業

本年度の有収水量は、16,348,022 m^3 （1日平均 44,666 m^3 ）で、前年度と比較して938,729 m^3 （6.1%）の増加となりました。

(イ) 建設改良

該当事項なし

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成23年度の収益的収支は、収入総額 548,696,861円、支出総額 498,638,277円で、差引き 50,058,584円の純利益となりました。

なお営業外費用中、企業債利息140,376,074円の財源にあてるため、未売水企業債利息債21,300,000円を借り入れました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	548,696,861円
(消費税及び地方消費税抜き)	支出総額	498,638,277円
	差引利益額	50,058,584円
資本的収支	収入総額	187,541,000円
(消費税及び地方消費税込み)	支出総額	416,174,470円
	差引不足額	228,633,470円

資本的収支の不足額 228,633,470円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 1,338,577円、過年度分損益勘定留保資金 227,294,893円で補てんしました。

公共下水道事業会計

(1) 総括事項

公共下水道事業は、処理人口の減少や節水機器の普及等による使用水量の減少に伴って、使用料収入が年々減少しており、経営的には非常に厳しい状況となっています。

そうした中、平成22年度から包括的民間委託を導入するなど、経費の節減等による経営の健全化に努めた結果、今年度も利益を計上することができました。

本市の公共下水道は、地方の小都市としては比較的早くから事業展開を行ってきたことで、事業認可区域内における整備はほぼ完了している反面、施設の老朽化が大きな課題となっています。

そうしたことから、今後の下水処理場やポンプ場等の施設の延命化と維持費の平準化等による中長期的な費用の抑制を図るため、「下水道長寿命化計画」の策定に必要な調査・診断業務を行いました。

今後、いっそうの経営の健全化に努めるとともに、安心して生活を営むために不可欠な、快適な生活環境の維持と公共用水域の水質保全に取り組んでいきます。

(ア) 営業

本年度の有収水量は、3,138,630^m³（1日平均 8,599^m³）で、和木町からの受入水量は、1,796,590^m³（1日平均 4,922^m³）になりました。

本市では、区域内水洗化率99.6%を達成し、人口普及率も93.9%であり、全国的に見ても高い水準を維持しています。

(イ) 建設改良（消費税及び地方消費税込み）

本年度は、施設の改良工事費に総額で 326,920,402円（うち消費税及び地方消費税 15,059,234円）を支出しました。

本年度に実施した主な工事は、以下のとおりです。

・合流改善雨水滞水池設置（電気）工事	133,108,650円
・合流改善雨水滞水池設置（機械）工事	22,243,150円
・小島汚水中継ポンプ場自家発電棟建設工事	30,587,600円

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成23年度の収益的収支は、収入総額 770,160,723円、支出総額 743,432,046円で、差引き 26,728,677円の純利益となりました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	770,160,723円
（消費税及び地方消費税抜き）	支出総額	743,432,046円
	差引利益額	26,728,677円
資本的収支	収入総額	508,077,709円
（消費税及び地方消費税込み）	支出総額	789,641,909円
	差引不足額	281,564,200円

資本的収支の不足額 281,564,200円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 5,261,631円、過年度分損益勘定留保資金 123,329,181円、当年度分損益勘定留保資金 152,973,388円で補てんしました。

